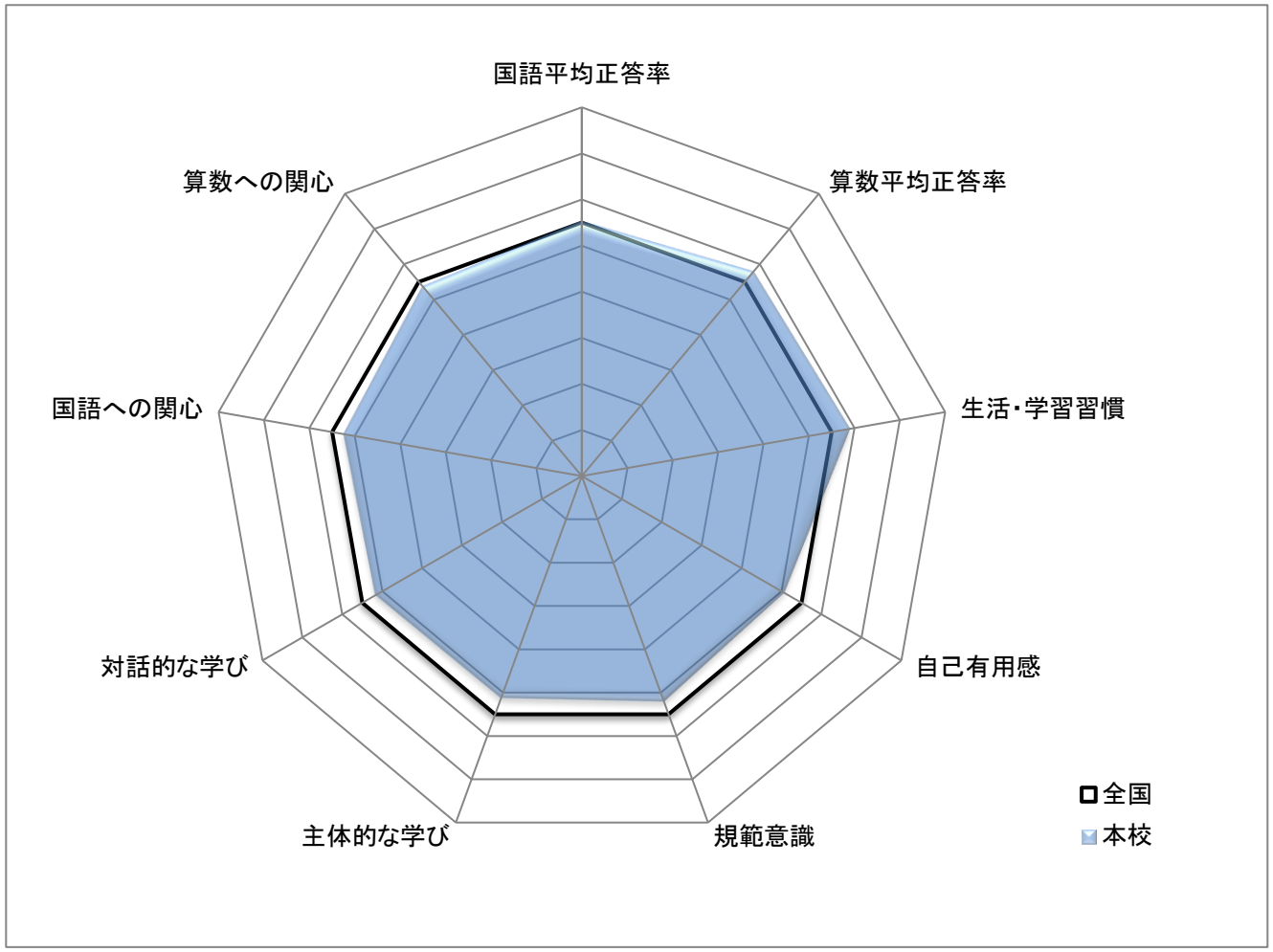
令和6年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

江戸川区立清新ふたば小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】
○話すこと・聞くことの内容は、全般的に内容を理解できている。選択肢から選択する問題は概ね正答を導き出している。言葉の特徴や使い方に関する事項は、全国平均並みである。
●国語に対する関心は全国に比べて低い傾向にあり、物語を読んで自分の考えを字数制限等の条件を満たして解答することができない児童が全国平均に比べて低い。

【算数】
○基本的な数と計算の内容の正答率は、全国・都平均よりも高い傾向にある。
●速さの問題は基本は理解できているが、二つの数量を比べてどちらが速いか答えて理由を書く問題ができていない児童が多い。

《授業改善のポイント》

【国語】
○引き続き既習の漢字や語句の復習を行うとともに，「よむYOMU」等の時間でできるだけ多くの読み物教材にふれ、そこから「書くこと」の力を付けるために、字数制限等の条件のもとで要点や自分の考えをまとめる練習を行っていく。

【算数】
○算数に関しては、国語に比べて児童の関心は高い。基本的な計算問題に丁寧に取り組んで正解できることを意識して取り組む。
●データの活用として、数値を読み取って別の数値と比べたりその理由を考えたりする問題に多く取り組んでいく。

《チャートの特徴》

○「国語や算数への関心」は全国平均とほぼ差はなく、「平均正答率」でみると、どちらの教科も全国平均レベルである。併せて、生活・学習習慣は全国平均を上回っていることから、学力向上を図る上での土台はできていることが分かる。
●一方で、「規範意識」「自己有用感」「主体的な学び」「対話的な学び」においては、全国平均を下回っている。さらなる学力向上を図るには、自己有用感を得ることや主体的に学ぶことが重要であると考えられるため、今後の課題となる。

《家庭・地域への働きかけ》

・保護者会や個人面談、学校公開、学年便り等で、学力調査の結果等を踏まえ、児童の学習状況を伝え、連携を図っていく。
・本校の特色であるほめほめカードを活用し、子どもの良さを価値づけ、自尊感情を高めていく。